

少年少女世界伝記全集

アンデルセン

柴野 民三



主婦の友社版

少年少女世界伝記全集 14

アンデルセン

	柴 野 民 三
	アルデルセン 主婦の友社 昭和52年(1977)11月30日 180p 22cm 発売 〔分類〕909

筆 者 柴 野 民 三
発 行 者 石 川 晴 彦
印刷・製本 凸版印刷株式会社
定 価 480円
発 行 所 株式会社 主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台1-6
郵便番号 101 振替 東京2-180番
電話 東京(03)294-1111(大代表)

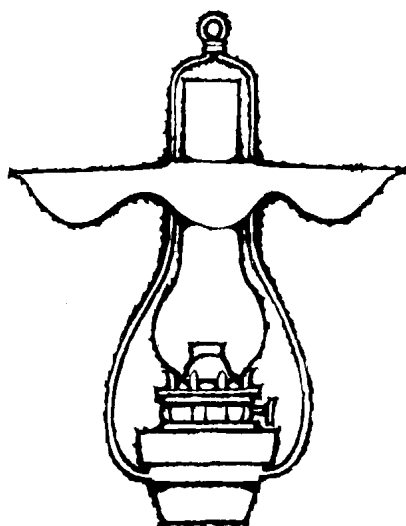
©1977 落丁・乱丁はおとりかえします。 著者との話しあいにより検印廃止。

少年少女世界伝記全集

アンデルセン

文・柴野民三

絵・斎藤寿夫



主婦の友社版

デザイン 駒宮録郎
装丁



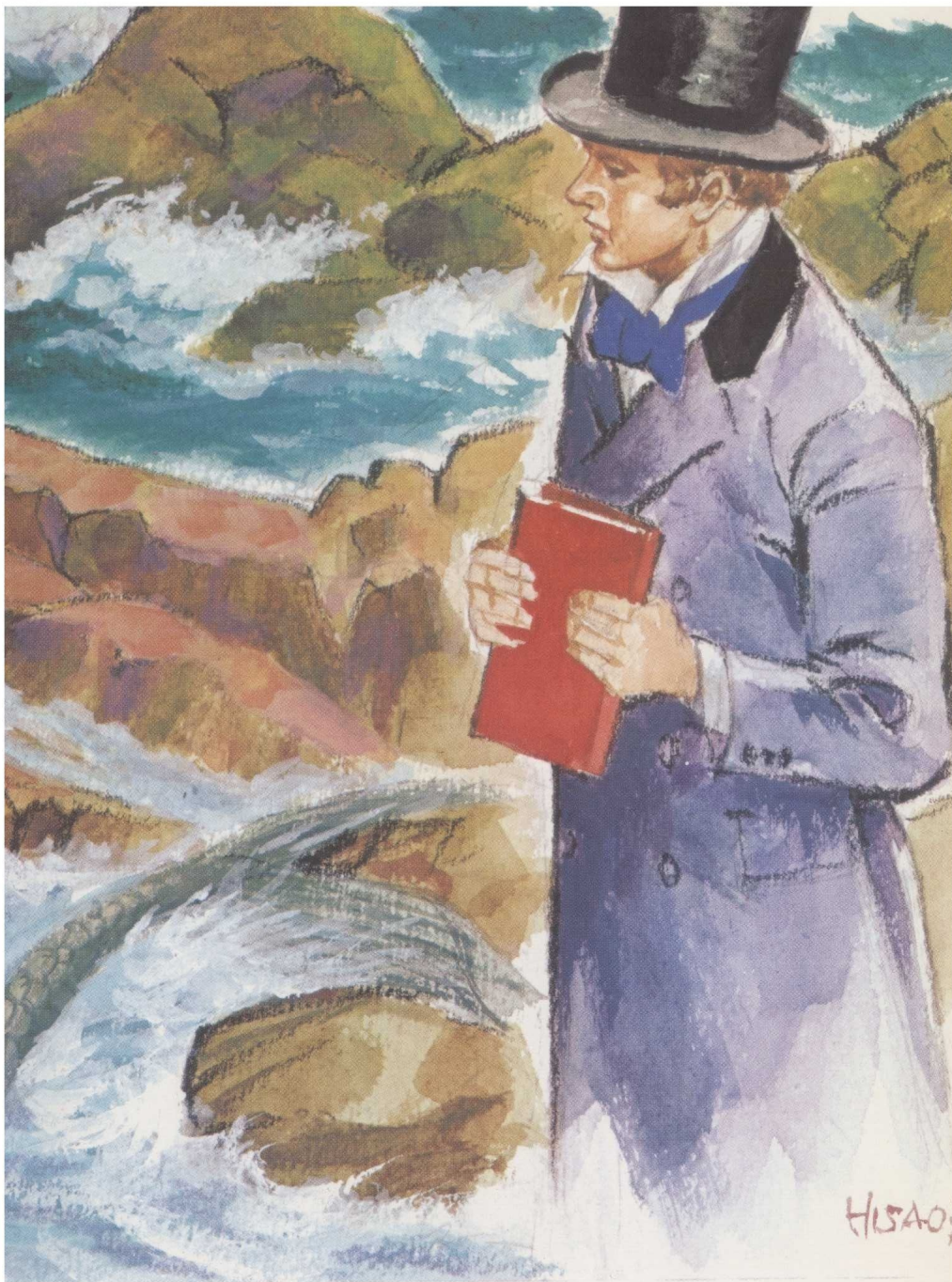
おとうさんは木切れであやつり人形^{にんぎょう}を作^{つく}って、ハンスに
人形芝居^{にんぎょうしばい}をや^みって見^みせてくれました。



かあさんは、ハンスに^{はな}花を^{あつ}集めて^{くび}首かざりをこしらえて
くれたのです。



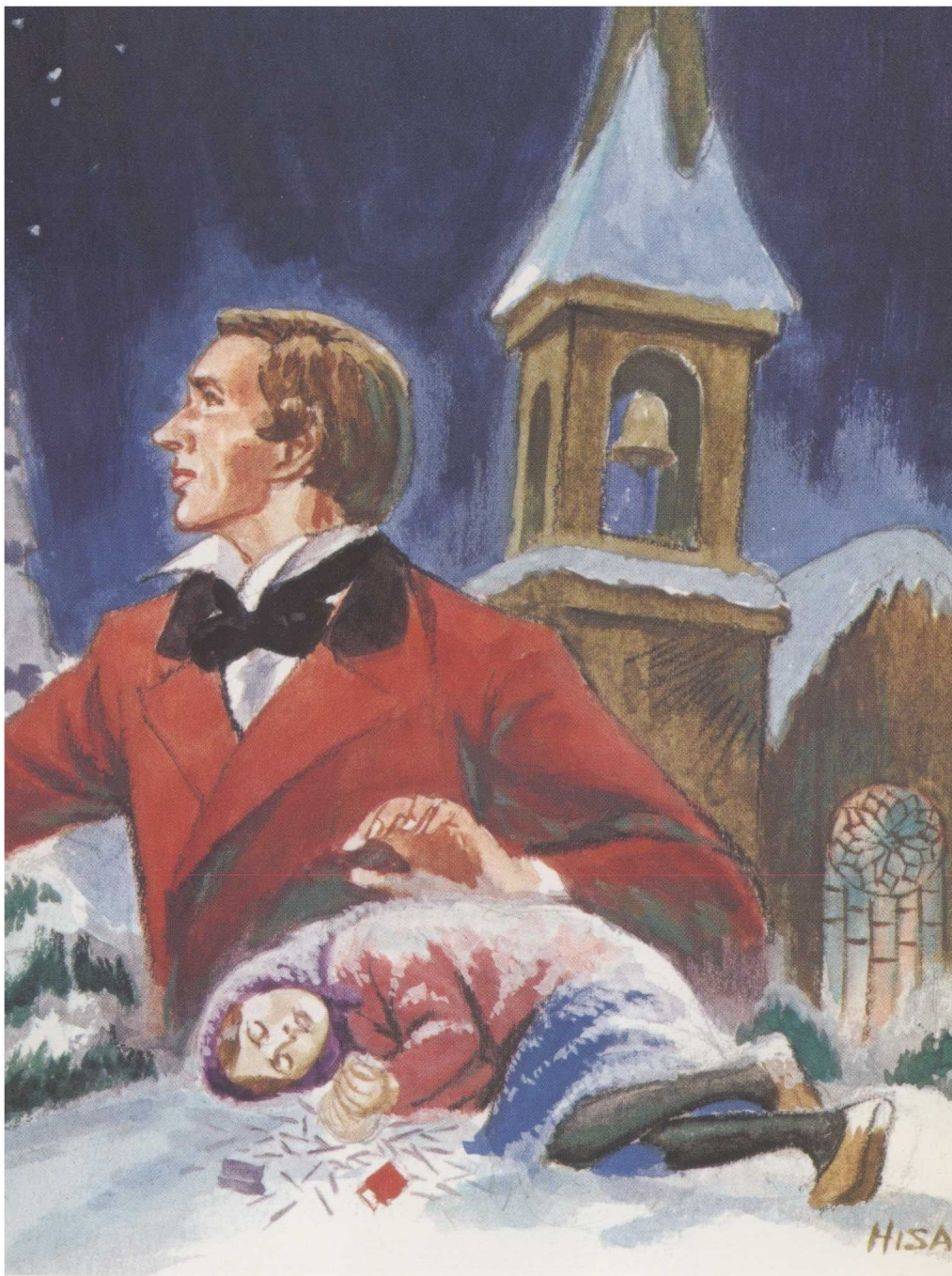
もりには、^{はな}花という^{はな}花がさきみだれ、^{とり}鳥という^{とり}鳥がさえず
っていました。ハンスは、^{はな}花はハンスのために^{ひら}開き、^{とり}鳥



た。この作品は、のちに発表する童話『人魚姫』のもとと
なった作品といえます。



スイスに滞在したアンデルセンは、ゆたかな時計師にむ
かえられました。かれはそこにとまって「アグネーテと
にんぎょげきしかおく

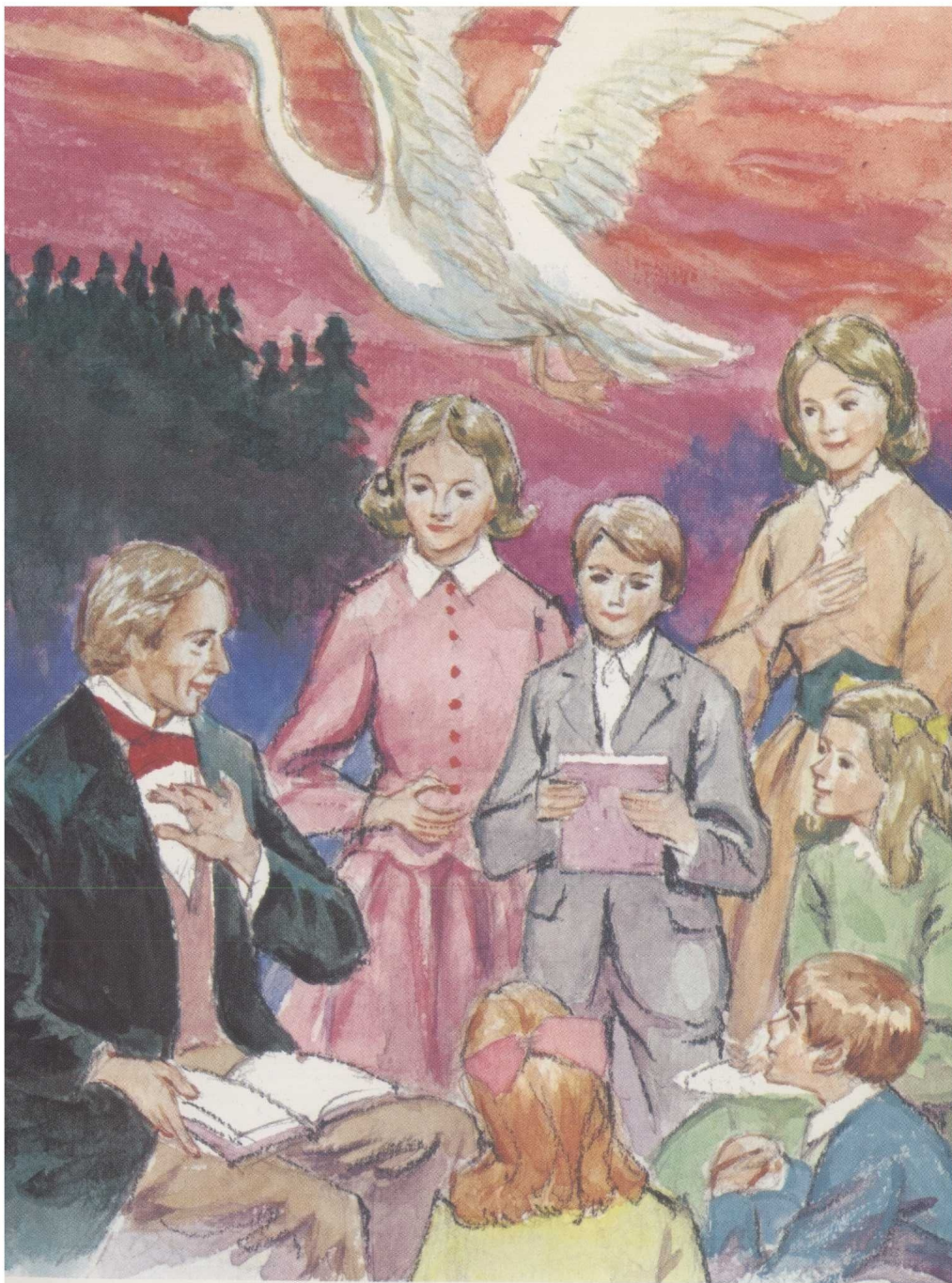


HISA

て来た^き真実^{しんじつ}を童話^{どうわ}の世界^{せかい}にうつし出^だすようにつとめてい
きました。



アンデルセンは、おかあさんが橋の下でこごえながら
いていた時の話をもとにして、『マツチ売りの少女』を書



アンデルセンは死にましたが、その残した^{のこ}百五十以上の^{いじょう}
童話^{どうわ}は、いまでも世界じゅうの^{せかい}人びとに^{ひと}読まれ、その心^{こころ}の
なか い

みなさんへ

アンデルセンの童話を知っていますか、と聞かれたら、みなさんは『人魚姫』『マッテ売りの少女』『はだかの王様』『みにくいあひるの子』と、いくつでも題名をあげる事ができるでしょう。

アンデルセンが童話を書きはじめたのは、百五十年ほど前のことですが、今もなお、その童話は、世界中の子どもにもおとなにも親しまれているのです。この美しい、そして、おもしろいたくさんの童話を書きのこしてくれたアンデルセンとは、いったいどんな人だったのでしょうか。

この本には、まずいくつ屋のひとり息子として生まれたアンデルセンが、たびかさなるこんなをのりこえ、のりこえして、自分のころざしをはたしていくすがたと、すぐれた作品を生み出していったみちすじを書きしるしました。さあ、アンデルセンの芸術のために生きぬいた一生を考えてください。

柴野 民三

もくじ

まずしいくつ屋の子

..... 15

お話がいったいの家

..... 15

信心深いおかあさん

..... 22

悪まと すい星

..... 28

落ぼ ひろい

..... 34

すばらしい予言

..... 39

学校にいったけど

..... 47

木ぐつをぬぐまで

..... 53

きのどくなおとうさん

..... 53

戦争と 氷姫

..... 61

本を貸してくれる人たち

..... 70

おり物工場の歌がかり

..... 75

親切なグルベル大佐ときびしい牧師

..... 84

ばらの花と皮のくつ

..... 90

さまようあひるの子……………99

コペンハーゲンをめざして……………99

ゆめはやぶれて……………105

すくいの手……………112

初舞台……………119

第二の父コリン氏……………126

天かける白鳥……………135

なつかしいふるさとオーデンセ……………135

作者ばんざい……………143

旅から旅へ……………150

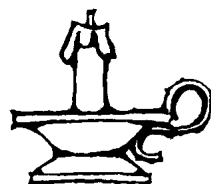
ついに生まれた人魚姫……………157

いつの世までも……………164

あとがき……………172

年表……………176

まずしいくつ屋の子



お話がいはいの家

ヨーロッパの北のはずれにつき出ているユトランド半島。そのまわりをとりまく
たくさんの島じま。これが、いまでも王さまをいただいているデンマークの国です。
島じまの中で、二ばんめに大きいのはフーン島。この島のまん中あたりに、麦